

# **Pila Program**

**2008.02.25**

**YutakaFutures**

## コンセプトおよび狙い

商品の価格は、その商品の要因だけではなく市場全体の動向や業界の動向の影響を受けます。

そういった外部要因による価格変動の影響を軽減させ、市場全体の地合いの影響をヘッジした状態で利益を得ることを目指して、ロングショートを用い運用します。

ペアとなる銘柄は流動的で、より多くのトレード機会を得ることができ、マーケットにニュートラルでベンチマークにとらわれない絶対リターンを追及します。

### 3市場、6銘柄によって構成

#### 貴金属市場

金  
白金

#### エネルギー市場

ガソリン  
原油

#### 穀物市場

とうもろこし  
Non-GMO大豆

## コンセプトおよび狙い

### 収益の安定性

- 国内商品市場で相関関係に関わらず、ロングショートスタイルで取引を行います。
- 売買の総約定を同額に設定することにより、急激な市場の変動にも安定したパフォーマンスの運用を目指します。

### 絶対利益の追求

- マーケットにニュートラルで、ベンチマークにとらわれない絶対リターンを追及します。

### 流動性リスクの回避

- 銘柄の流動性を考慮し、寄付き発注にすることで、発注インパクトを低減し、ローリスクで勝率の向上を図ります。

### 再現性

- 統計手法を用いたシステム100%で売買判断を行い、高い再現性と安定性のある運用を目指します。

# 概要

## 1. ニュートラルな取引による安定運用

ポジションはマーケットに対して常にニュートラルであり、最近によく見られる市場全体での急激な変化に対しても安定したパフォーマンスの運用を目指します。

## 2. 銘柄の選別

現在は、流動性に優れた銘柄として、金、白金、ガソリン、原油、とうもろこし、Non-GMO大豆の6銘柄で運用し、収益機会、リスクの分散と安定性を高めます。

## 3. 枚数 売買それぞれの総約定代金を揃えて建玉を行います

各銘柄とも、新甫へのロールオーバーの際に運用枚数の調整を行います。

## 4. 構成

運用資産に対して、商品の総約定代金の比率を求め、建玉全体の枚数をコントロールします。

そのため、商品全体で価格が上昇し、ボラティリティが上がりやすい環境になるほど、建玉もセーブされるように設定しています。

# 概要

## 5. 分析

各銘柄ごとに、長・短期の分析を行い、その結果を用いて銘柄に順序づけを行っています。売買判定は大引けの価格で決定し、翌日寄付きでエントリーします。

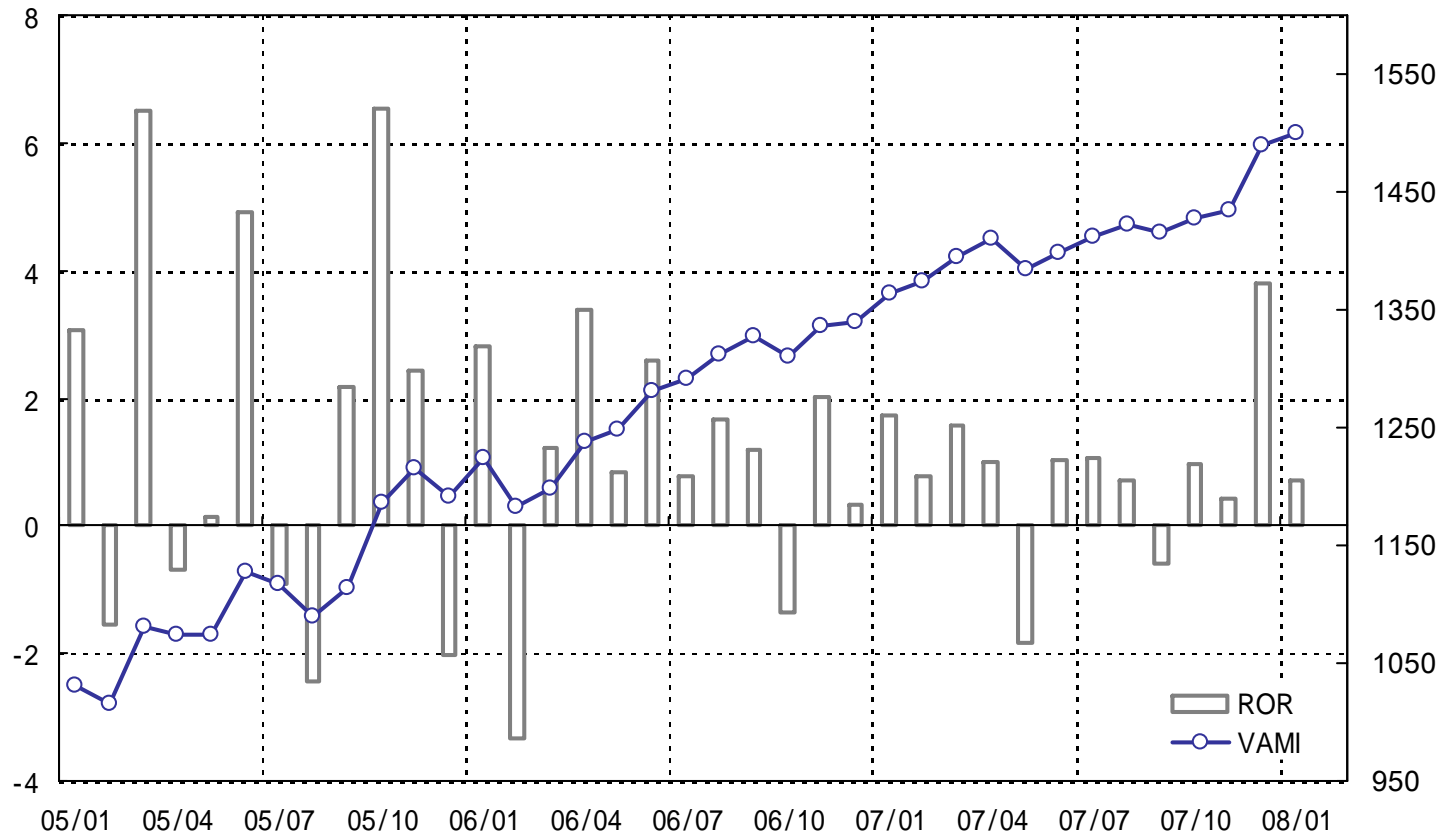
## 6. 限月乗換について

建玉は常に期先限月で行います。限月乗換は新甫発会の3日後の寄付きで成行き発注を行います。

## 7. 定量的なロスカットの設定

全体での月次成績を日次観測し、大引評価が - 5%を下回った場合は翌営業日で全建玉をロスカットします。再エントリーは、翌月第一営業日に行います。

プログラムのRORとVAMIの推移



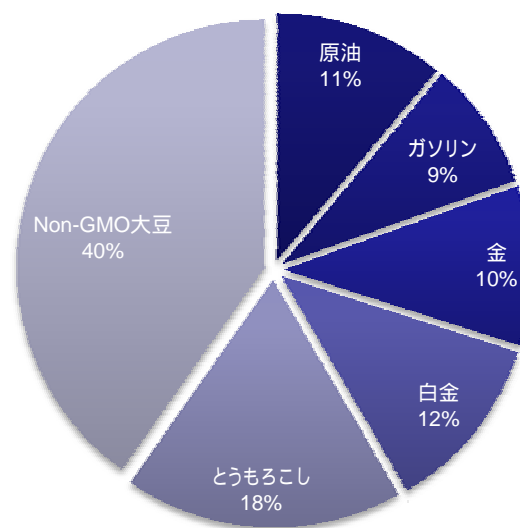
# バックテスト結果

手数料:往復1,000円(Non-GMO大豆は400円)  
 スリッページ:往復5,000円(Non-GMO大豆は1,000円)

年次	
年間収益率	13.63%
標準偏差	7.75
シャープレシオ	1.63

月次	
勝ち月	27
負け月	9
勝率	75.0%
勝ち平均	2.06%
負け平均	1.63%
PO	1.26
最大ROR	6.53%
最小ROR	-3.33%
最大DD	-3.37%
証拠金比率 (平均)	4.44%

現在の枚数比率



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年次
05年	3.08	-1.54	6.49	-0.68	0.14	4.91	-0.92	-2.45	2.16	6.53	2.44	-2.02	18.14
06年	2.80	-3.33	1.21	3.38	0.83	2.58	0.78	1.66	1.18	-1.35	2.01	0.32	12.09
07年	1.73	0.77	1.58	1.00	-1.83	1.03	1.06	0.71	-0.58	0.96	0.43	3.80	10.66
08年	0.70	2.88											3.58

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月
収益率	1.14	3.42	6.84	13.63
リスク	2.24	3.88	5.48	7.75